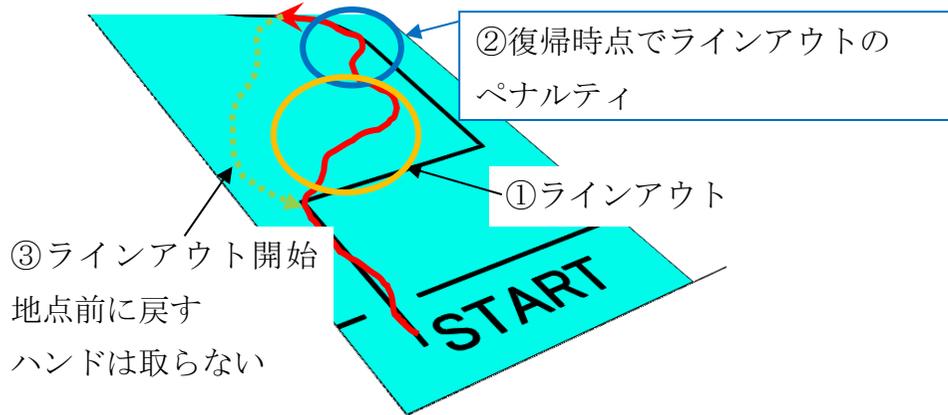


H30 ロボットトライアスロン2018 タイム早見表 (案) (18/09/27 版)

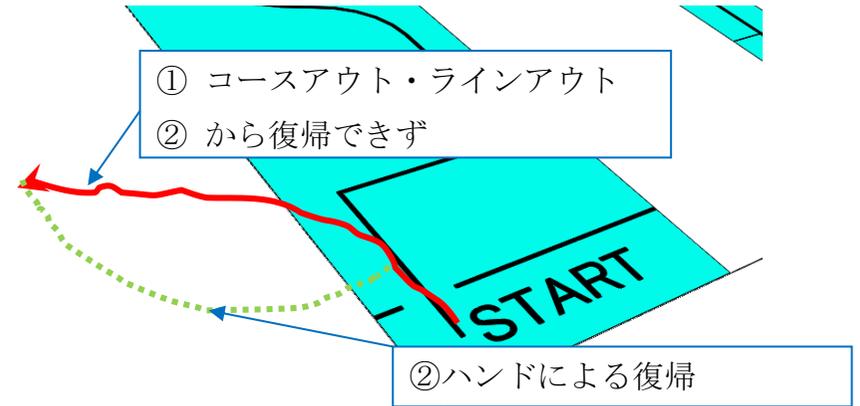
場所/種目	反則行為	ペナルティタイム	判定	競技再開位置などについて
コース上	コース操作	退場 競技中止	競技者がコースの構成物を故意に動かし、競技を有利に進めようとしたとき.	競技を中止し、競技者とロボットを退場処分とする
	コースアウト	6 秒/回 競技中断(タイム続行)	ロボットの一部分が、コースから出た後、自力でコースに復帰	1. 反則のあった場所か、そこよりもスタート方向に戻った場所から再開. 2. スタートから 50cm までは反則をとらない. 3. 同じ直角コーナーで 3 回失敗した場合は、ハンドと引き換えにコーナー出口から再開できる. 4. 主審・副審は手を上げて指で失敗回数をカウント. 5. 玉入れエリアではシート外側 1m までの領域を走行しても反則と見なさない.
	ハンド	10 秒/回 競技中断(タイム続行)	競技者がロボットに触れたり、手で誘導したとき.	
ライン トレース	ライン アウト	3 秒/回 競技中断(タイム続行)	ロボットの全部がラインをはずれ、しばらく走行して自力復帰 すぐに自力復帰した場合はペナルティなし	
迷いの森	接触	5 秒/回	ロボットが障害物に接触して倒したり、明らかに移動したとき.	そのまま競技を続けてよい. 障害物はそのまま放置する. 障害物がロボットに乗るような状態にある場合は審判が下ろす.
	救助	30 秒または ボール 4 個の通行料	救助を宣言したとき. ただし、救助ラインを超えるまで救助できません	救助迂回路に続く救助ラインから再開する.
種目	加点行為	ボーナスタイム	判定	競技再開位置などについて
玉入れ	玉入れ A 玉入れ B	玉入れ毎に 1 球目 20 秒 2 球目以降 5 秒/個	玉入れに入ったボール、玉入れ上に乗って静止しているボールが加点対象. 競技終了後数秒時点で、転げ落ちたボール、玉入れからこぼれたボール、ロボットが支えているボールは対象外.	反則行為があった時点で競技終了するか、リスタートできます. (リスタートとは、ロボットをタイム計測ライン上に移動して競技を再開することです. ボールや玉入れは元に戻しません)
	吸収 マット	1 球につき 5 秒加点	吸収マットエリアの玉入れ A, B に入ったボールへの追加加点.	

- 審判の短笛で競技開始、長笛 (あるいは 3 回の短笛) で競技終了
- 反則行為があった場合、主審は笛を鳴らし、その種類を告げる. 副審が、反則行為・加点行為を認めたとき、声を上げて、主審に判断を促す.
- 同時に複数の反則が生じた場合、その中で最も重たい反則のみカウントする.
- 競技者がタイム計測終了地点までの完走をあきらめたときはリタイヤとする.
- コース上の課題をスキップして、ロボットを先に進めた場合は、完走をあきらめたものとみなしリタイヤとする.
- スタートからタイム計測地点までの「走行タイム」に、「ペナルティタイム」を加え、「ボーナスタイム」を減じた「総合タイム」で競う.
- ペナルティの大きさは、(ラインアウト→復帰) 3 秒 < (コースアウト→復帰) 6 秒 < (復帰できず→ハンド) 10 秒

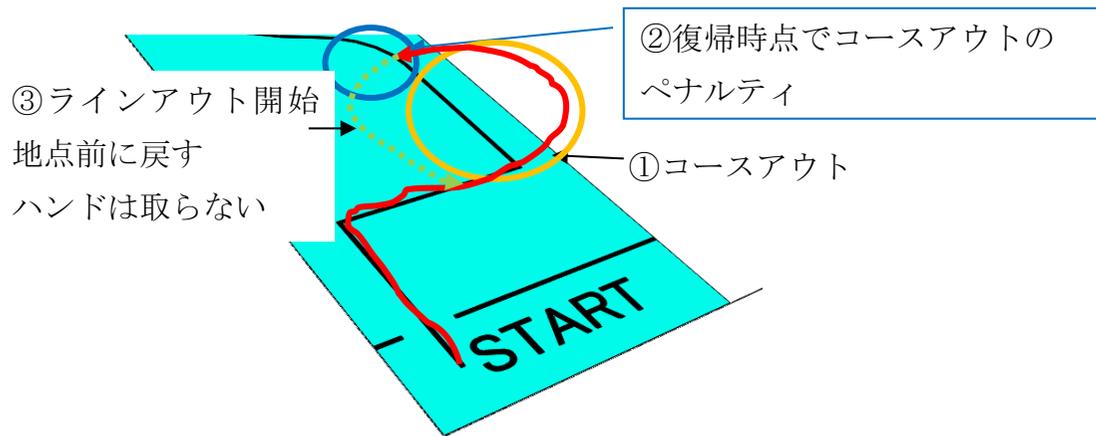
ラインアウト・コースアウト・ハンド関係のペナルティの例



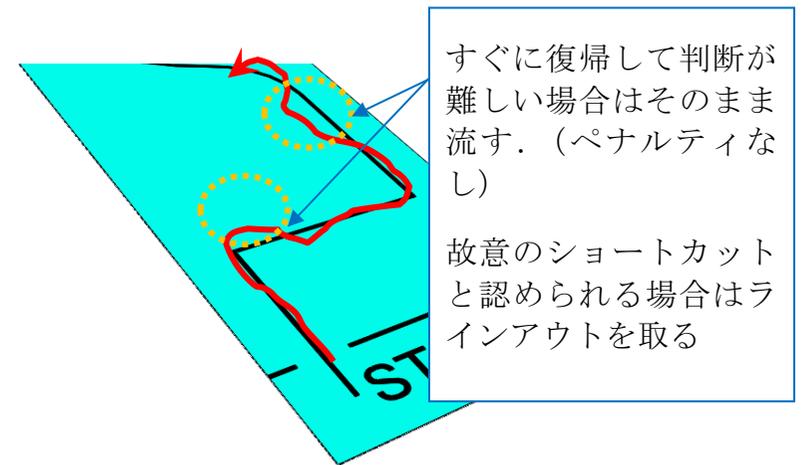
例1) ラインアウト→しばらく走行して復帰 (3秒)



例3) 復帰できず→ハンド (10秒)



例2) コースアウト→復帰 (6秒)



例4) ラインアウト→すぐに復帰 (0秒, ペナルティなし)